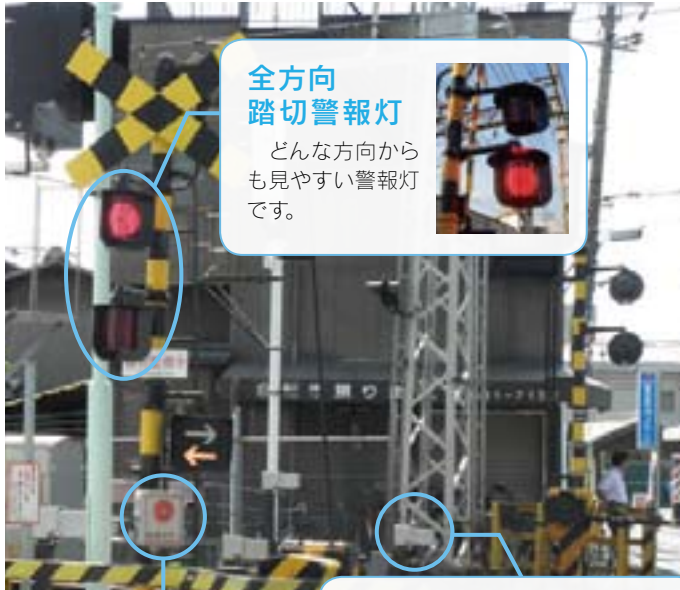


踏切の安全性向上



全方向踏切警報灯

どんな方向からも見やすい警報灯です。



オーバーハング型警報機

遠くから踏切の存在が分かるように、高い位置に警報灯を設置しています。

列車進行方向指示器

どちらから列車が接近しているかを表示する装置で、LED化により視認性を高めています。



踏切支障報知装置

緊急時に押すことで、付近の列車の運転士に異常を知らせることができます。



踏切障害物検知装置

自動車などの立ち往生を自動的に検知し、付近の列車に停止信号を表示します。



スリット型遮断かん

折れずに元の状態に戻りやすい遮断かんのことで、自動車などによる折損を防止するため一部の踏切で採用しています。

踏切監視カメラ

踏切の状況確認や記録を目的とした監視カメラを設置しています。

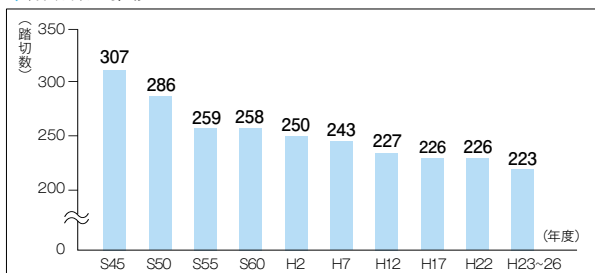


※踏切監視カメラが撮影した画像

踏切数の推移

踏切を廃止し運転保安を向上させる立体交差化により、昭和45年に307カ所あった踏切を平成26年度末時点で223カ所まで減少させました。

◆踏切数の推移



踏切での啓発活動

踏切を通行する歩行者や自動車の運転者に、踏切の無理な横断や自動車の無謀通行をしないよう啓発活動を行っています。

また、沿線の小学校に対しては、子どもたちへの踏切事故防止のための教育をお願いしています。



踏切での啓発活動



教室の風景